

平成29年度第2回宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録

○日時：平成30年3月29日（木曜日） 15時45分から17時00分

○会場：海の道むなかた館 講義室

○出席者：亀井会長、樋田副会長、海出委員、河窪委員、園元委員、牟田委員

【事務局】 吉原課長、徳永室長、灘谷局長、合島係長、白木主幹、

安部企画主査、井上主任主事

1. あいさつ

○会長

平成29年度第2回目の協議会を開催したいと思います。今日はこの協議会の前に1時間地域学芸員の方との意見交換会ができましたことはたいへんありがたく思っております。事務局の方をはじめたくさんの方にご迷惑をかけたのではないかと思いますありがとうございます。

2. 報告事項

①展示室のリニューアルについて

○会長

今、大スクリーンを拝見したところですがご感想などございますか。

特にないようであれば次へすすみたいと思います。

②『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」の登録後の状況について

○事務局

年に一度文化庁に対する報告をしなければいけません。お手元の資料が積み重なり、6年に一度のユネスコへの報告資料の基礎となります。この後、4時半から福岡県と宗像、福津の保存活用協議会がございまして、県知事も出席し、そこでこのようなかたちで文化庁へ報告しますがよろしいでしょうか、というような手続きを踏んでいきます。

1ページの6番、資産に影響を与える要因とありますが、世界遺産になり資産がどう変化していくのかというモニタリングをおこない、その結果をここに記載しています。

宗像大社沖津宮の経過観察では、大雨の影響、巨岩の風化はあるが深刻なものはありません。それから沖津宮の社殿を29、30年の2か年で修理し、ここにありますように真実性に留意し、適切に修理を進めております。遥拝所は特に大きな変化はみられません。中津宮は参道の改修が行われています。辺津宮は拝殿周りの参道の整備、平成29年9月には拝殿前の幄舎の改築、勅使館の建替が行われました。このように資産についてもこういった変化がみられます。たとえば、人的なものによる場合は、真実性とか信仰に影響がないよう留意しながらやっていますという報告です。

保存管理体制ということで、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会が設置されています。事業者代表、地域コミュニティ、市民の会と連携をとりながら保存活用協議会と行動を共にしていき、文化庁、専門家会議、顧問からのアドバイスをいただきながら今後の保存や活用について考えています。

世界遺産になったの状況については、来訪者の状況で沖津宮は該当者はありませんのでバーをいれています。中津宮、辺津宮、古墳群の数字を入れています。大島交流館は、7月のオープンなので若干数字が少ないです。海の道むなかた館も年度の記録で来館者が一番多かったです。去年と今年で数字を把握できるのが神宝館、海の道むなかた館で、神宝館が数倍、海の道

むなかた館が1.3倍から1.4倍になっています。大島にわたる渡船の利用客も1.3倍から1.4倍に伸びています。世界遺産になると3倍から4倍になると言われていますが、じわりじわりと伸びてきている感じです。とくに大島については、渡船で伸びている3割、4割は、ほとんど世界遺産目的のお客さんと考えられますので大島の人の体感的には2倍ぐらいの感じであるそうです。レンタサイクル貸出は、今年の6倍になっています。宗像大社に観光ボランティアのガイドの方がいらっしゃいますが、ガイドの依頼が3倍になっています。確実に世界遺産目的に来ているお客さんが増えていると感じます。

5ページの展示・解説施設の充実、これは三者会議でやっていることで昨年1月から3月は国立博物館で宗像大社の国宝を展示する特別展をやったり、宗像では大島交流館を開設したり、福津ではカメラステージを開設しました。むなかた館におきましても世界遺産になったということで展示の充実と先ほどみていただいた大型展示、新年度になりましたら造作物の制作、どんなものかはこれからになります。情報発信についても今年の11月に京都でシンポジウムを実施しています。

案内の充実として大島から沖ノ島が見えますので今まであった展望台が景観のことを考えていなかったのを景観に配慮した展望台にしようということで撤去まで進んでいます。新年度で新しいものをつくります。保存と活用を両輪とすることで価値をしっかりと伝えて価値を理解したうえで、だから世界遺産なのだ、だから守っていかなければいけないのだということを広く知っていただくことを今後の活動のテーマに考えています。

7ページ、8ページでは、平成30年度に保存活用協議会でやること、福岡県がやること、宗像市がやること、福津市がやることを列記していますのでご覧ください。

○会長

ありがとうございました。今のご説明になにかございましたら。
今まで登録に一生懸命でしたが登録されたら保存と活用に軸足が移っていくということですね。むしろこの館との関係でいうとあとの議題に出てくるように例規の改正によって沖ノ島のことが組み込まれるというところがこの館の運営協議会との係りということですね。

○事務局

はい。そうです。

○事務局

補足ですが、資料の一番最後から2枚目平成30年度協議会および構成団体による実施施策の概要の1-3(1)信仰上の禁忌や伝統的慣習の周知、先ほど地域学芸員の方から信仰の話がでていましたが、ここでなんらかの形でわかるようにしていくということで、その計画は地域学芸員の方々と連携しながらやっていきたいと思っています。

○会長

この館との関係でいうと沖ノ島の世界遺産とのかかわりということになってきますね。

○事務局

このむなかた館から神宝館までの県道の電柱の地中化ということ福岡県が予定しています。市は国の補助を受けながらなるのでしょうが新年度で地中化にむけた準備をやっていこうと思っています。

○会長

館の中身という物理的な意味合いの変更というものは当面はないのですか。

○事務局

今スクリーンがありますがもう少しその周辺を沖ノ島の雰囲気だせればいいなと考えてい

ます。

○会長

それではご報告をいただいたとさせていただきます。

③宗像市郷土文化学習交流館条例の一部改正について

資料1：宗像市郷土文化学習交流館条例の改正内容 事務局（合島係長）の説明。

○会長（亀井会長）

ありがとうございました。すでに承認されたことなので特にご質問もないと思いますがよろしいですか。

○一同

はい。

④平成29年度 宗像市郷土文化学習交流館事業の状況について

資料2：平成29年度海の道宗像間事業実績 事務局（合島係長）の説明。

○会長

ご質問はございますか。

○委員

今見せて頂いた大型スクリーンはいつ一般公開ですか。

○事務局

実際は火曜日から静止画は見せています。本日県知事が来られて見る予定で、動画は県知事が見た後から流すよう指示がっておりますので明日から見て頂けます。

○委員

スクリーンが映っていない時はどうなっていますか。

○事務局

スライドショーのような形で静止画が紙芝居的に切り替わるように流れます。

○委員

先ほど少し目がクラッとするなどの意見があったので、動画はなくなる可能性もありますか。

○事務局

ないと思います。スライドショーは終日つけています。

○委員

大分の県立歴史博物館は入ったところに石仏がありインパクトがあります。先ほどジオラマのお話がありましたので、ここも沖ノ島の遥拝所みたいな、石仏みたいなものがあればおもしろいかと思います。

○事務局

県の推進会議で決まったことなので、その辺を先生方がどう判断されるか、またここは宗像市の施設であり、海の道むなかた館の運営に対して、皆さんいろいろなご意見があると思います。ある時点で協議してくださいという案はくるかと思いますが。協議していただきときたときには、上の方で決まっておりますから、そこでさまざまな意見をあげることは難しいのではないかと思います。7月までには、だいたいのスケジュールが確定するので、その前に日程が組めれば本日の形のようなものを組み、地域学芸員、皆様の声を聞く場、伝える場を設けたいと思います。それが反映されるかは自信がありません。

○委員

いかに沖ノ島に行った雰囲気にするのが、大きな課題かと思います。

○事務局

県の予算にも限りがあるのかと思います。

○委員

23日、市からの説明会があり、市の方々も私たちの思いと同じかなと強く感じたことがありました。こういうこと1つにしても今更なのですが、県の意見があって、市の方が思いもすごく強くおありなのですが、なかなか思う通りにはいかないのだなとすごく強く感じた説明会でした。擁護するようですが、むなかた館も市側の方の思いが重なってきたのかなと感じた説明だったなと私は評価しております。

○会長

さきほどこの所有権と運用権はどこにあるのか県の方に聞いたところ、協議会が設置したんですとおっしゃっていました。

○事務局

事故がおきたときの補償関係や破損した場合の責任所在が実際まだ回答いただけていません。

○会長

我々は協議するだけですが、本来その部分を協議すべきだったのかと思います。

○事務局

そういったこともあり、本日県幹部の方々に説明し、現場の声を直接聞いていただきたいと思っています。

○会長

宗像市、特にむなかた館の方は、展示室のスペースをわかっているはずですが人間工学を考えてないなど。普通は画面と映像をするときにある程度の距離が必要です。あのスクリーンは、初めに大きさありきですよ。

○委員

いずれいろんな形でこの地域全体が変わってしまう。今ちょうど過渡期でどこまですればいいのか、いずれなくなる運命にあるわけですから、そのつながりをなんとか破綻なく次につなげるためにしていくのが精いっぱいであると思います。

○会長

ただそういう時に心配なのは、世界遺産ということで、色んな行政機関がありますが、おそらく大きな構造物を建築運用する際には、県や国の主導になるんだろうと思います。そうすると本来旧宗像郡の歴史文化を発信し継承して広めていく目的がとんでしまい、世界遺産メインになってしまい、宗像が飛んでしまう。そうすると市民としては納得できないところがあり、我々の協議会の範囲を超えることで、ほかの機関で審議されると思いますが、地元尊重と言いながら初めに答えありき、計画ありきでは困ります。

○事務局

ゴールしてみても形がよく、市民の皆さんが納得できればよろしいが、その反対にいけないように、地域学芸員の皆さんの声を出すところ、伝えるところを仕組んでいきたいと思っています。県に対して、なかなか声が届かない事もありますので、直接地域学芸員の声を届けるような形の間をなるべく設けたいと思っています。そうすることによってよりよいゴールができればと思います。ここはなくなります、世界遺産センター等続いていくので、宗像はボランティアの方がおり、運営に関しても哲学など考え方を持っている皆様方がいらっしゃるということを県にも国にも知らせるべきだと思っています。

○委員

宗像の一番よいところは市民と一緒に担っているところがいいところです。

○会長

今日の地域学芸員の方の意見にもありましたが、宗像自体の存在や役割が市民の間で今ひとつといった意見がありましたが、そこがもっと広がっていかないと。今心配している県主導の世界遺産センターをつくっていく方向性が市民の方々に理解してもらえるでしょうか。

○委員

悩ましいのは、出土品や文献資料など宗像大社の所蔵品がほとんどを占めており、どこまで行政と関わっていけるのか、市民の方が個人の持ち物に対してどれだけのことができるのかを世界遺産センターでもっと幅広い活用を考えて頂かないといけないと私は宗像大社の学芸員として思います。

○会長

そうなってくると市の文化、発信が心配になってきます。この建物も組織としてもなくなってしまうとなるといったい何のための世界遺産だったのかということになってきます。

○委員

地域学芸員の方は、先ほど意見がありましたように、とてもよく勉強されていて、この委員の方々も、このむなかた館は地域学芸員によるところも大きいと評価していただきありがたいことですが、別の見方をすると私たちはお客様から「ありがとう」という言葉の報酬をいただいて、それが生きがいになっていると思います。今いろいろな行政の話がでて、私もわかりかねることも多いのですが、地域学芸員の方が今までのように生きがいをもって活動できる場もぜひ確保できるようにお願いしたいと思います。

○会長

この協議会がどのように関わられるか、市の担当の方でも考えていただいて、われわれをよい意味で利用していただければいいと思います。行政には行政の掟があるのかもしれませんが、できるだけ市民や市中心でいくべきかと思えます。

③の関連協力事業の金海市大成洞古墳博物館交換研修とありますが、どんなものだったのですか。

○事務局

金海市大成洞古墳博物館と海の道むなかた館は姉妹館提携をしており、交流をしていて、今のところは人事交流として学芸員同士、昨年度も行き来をして市内の遺跡を見てもらったりしています。新年度も継続し、人事交流をしたいと考えています。

○会長

ありがとうございます。これで報告事項は終わります。

(2) 議事

①平成30年度宗像市郷土文化学習交流館事業計画(案)について

資料3：平成30年度海の道むなかた館事業計画概要(案)事務局(合島係長)の説明

○会長

ありがとうございました。さきほどの報告にもありましたように年間通じて非常に多くの事業があり、それを5つポイントにわけて整理されています。ご質問、ご意見がございましたらお聞かせください。

○委員

5番目の地域学芸員事業についてですが、地域学芸員の皆さんに学術的レベルを求める

必要はないのかなと思います。宗像という地域の良さをほんわりとお伝えできればそれでいいと思います。

○委員

そうですね、例えば宗像の山城について3日間の計画で研究にきた方の対応は、自分の勉強不足を露呈して恥ずかしいのですが、それを学ばないと対応できないし、神職の方は沖ノ島に行き、10日間常駐されるのですよとか。そのようなことに興味を持たれるお客様の方が絶対に多いと思います。山城のことを聞きたいと思われるお客様はごく稀なパターンで皆さん、宗像の逸話などに興味をもたれますし、そういうことを目的に来られる方が多いと感じております。

○委員

私もそう思います。地域学芸員という言葉がそのような誤解を招くかなと感じます。

○委員

だからどこまでこの館が担うのか、どこまで要望を受け取るのかということで私たちのいろんな意見があり、誰が正しく、誰が間違っているとは言えませんが、ある程度館側が主導されて、担う範囲や展示の範囲というのは指針を示していただいた方がいいのかなと感じました。

○事務局

今決めているのは、地域学芸員さんの活動の場は、空間的なものですが、それは館の中と学校への出前講座だけということです。もう1つは、どこまでやっていただけるかですが、私自身は、こうあるべきと縛ってしまうのは似合わないのかなと思います。それよりもあいさつをしていただいて、来館された方が気持ちよく帰っていただくことが1番ではないでしょうかと思っています。ただし、地域学芸員の方の中には、歴史のことを勉強したいと思われる方もいらっしゃいますので、その講座の提供はしなければいけないと思っています。対象が観光ボランティアさんであったり、地域学芸員さんであったり、地域の歴史好きの方であったり、その方々にその場を提供して、その参加者同士でなんらかの連携ができ、情報交換の場になればいいと思います。またそういったものは、つくっていかないといけないかなと思っています。地域学芸員の方に全問正解しないといけませんよとの考えもありましたが、それはちょっと違うのかなと今は思っています。

○委員

ただ小学校の子どもたちがきたときには、どの小学校の子どもに対しても同じことを教えないといけないと思います。

○事務局

間違ったことを伝えないようにですね。こうでなければならぬとカチツときめるよりはいろいろ試行錯誤しながら、今のようなご意見をいただきながら、あまり締め付けないような対応をしたいと考えております。

○会長

地域学芸員の方のあり方というのは結構難しいと思います。私どももいろいろなところに行くと各地に地域学芸員のような方がいらっしゃいます。今までの極わずかな経験ですが、中にはまれに少し上から目線で話される方がいらっしゃったり、質問をしても答えがかえってこなかったり、説明の内容が後で調べてみると違っていたということもありました。やはり良いイメージをもって帰っていただきたいです。接客の問題がありますが、それに少し知的な遊びを加味して、たとえば、むなかた学というような検定問題を初級、中級、上級とつくり、10分ほどで受けることができるようなものを来館者の方にも受けていただき、証書を渡すなど毎年やっていくということも1つかと思います。

○委員

以前、友人がご夫婦2人で見て回りたいのに、ずっと付いて説明をされるので、ずっと聞いてはいたけど、あまり良い気がしなかったと言っていました。ついてこられるのであればいきたくないとも言われていました。お客様が学芸員の方々を求められているのかどうかということですね。本当に真面目に勉強されている方は、すべて教えてあげようと思われるようです。

○事務局

ガイドが必要かどうかの対応についても初級講座等でももちろん説明しますが、それができるかということは無理なのかなと思います。

○委員

私もその点は、真剣に考えました。たとえば、入口にカードを置いて質問や解説が必要な方は、このカードを中の係にお渡しくださいとかつくったらいいのではと思います。学芸員のみなさんは悪気が全くありません。私がじっとしていると「ほら、あなた、今度説明に行きなさい。」とそんな感じです。ただ、みているとこの方々は自分たちだけみたいとわかります。そんな時に説明に行きなさいとうながされる時は、「何かご用がございましたら、遠慮なくお申し付けください」と言っています。

○会長

お店で商品を見ているときに、はじめから店員さんにつかれるより様子を見て声をかけていただけるといいのですが、そのタイミングのハウツーというのは、訓練してできるものではなく、マニュアル化できないものだと思います。

○委員

ほとんどの博物館がこのように寄ってこられて説明をされるということがないと思います。

○会長

学芸員の方の研修があるとするならば内容に関する知識はもちろんです。接客という項目をたてて研修をおこなってはいかがでしょうか。地域学芸員のより良いあり方をお考えいただきたいと思います。

○事務局

地域学芸員の初級コースの中に接客のマニュアルを項目に入れるようにしております。実際に私どもの方へ苦情というかたちで受けたこともあります。それを伝えると学芸員の方に悪いかという思いもあり伏せておりましたが、これまでもいろいろございましたのでその都度、こういった苦情がありましたと公開するようにしました。それをご自身のこととわかるかどうかはわかりませんが、繰り返しお伝えしようと思っています。

○会長

地域学芸の方とお話ししたときに来館者の方にどのようにみられているのか、ぜひそれを知りたいと言われていました。今後お考えいただければと思います。それでは議事についてはよろしいでしょうか。

3. その他

○会長

前回の議事録にお二人の方から訂正がありました。議事に特に大きく内容に関わることはありませんでしたので私の方で拝見させていただき OK ということにさせていただきました。それから樋田副会長が、4月に太宰府の教育長におなりになるということでこの協議会を

退かれることになりました。

ひとことごあいさつをお願いします。

○委員

ご紹介いただきましたように3月22日付で太宰府市の教育長に就任をいたしました。常勤ということと、慣れていないものでなかなか出にくくなってしまいましたものですから、辞任させていただくことになりました。ちょうど3年間やらせていただきましたが、任期的には1年を残して退任することになり、たいへん残念で申し訳なく思っております。この協議会は、たいへんおもしろく、委員の皆さんのご発言やいろんな面での資質が高いと思います。とても充実した協議会だと思います。今日はとくに充実した協議会でした。この協議会に参加させていただいたことをありがたく思っております。ちょうど就任したのが世界遺産に登録する前後だったので、その一連の流れも勉強させていただけましたし、登録後に当該市町村の皆さんがどのように思われるのかということも聞かせていただきました。太宰府にもたくさんボランティアをかかえております。今日は、ボランティアの方々の気持ちもわかりましたし、皆さんとにかく前向きで理にかなったご発言をされています。それがどなたにおいてもということが、宗像の市民力だとあらためて思いました。課題がたくさんあるかと思いますが、知恵をだしながら解決をしていきたいと思っております。なによりもこのような人的なつながりをいただけたことに感謝をしております。太宰府天満宮と宗像大社と似たところもございます。個人的には、宗像と太宰府のつながりがもっと強くなればうれしいと思っております。

今後ともよろしく願いいたしまして退任のあいさつとさせていただきます。

○会長

以上で本日の協議会を終わります。